

な る ほ ど 経 済 指 標

景気ウォッチャー調査

検索

発表機関：内閣府（毎月第6営業日発表）

街角における景況感の動向を示す指標として、景気ウォッチャー調査があります。この調査は、景気動向の迅速な把握に優れ、ビジネスのヒントにもなる「街角の声」を豊富に収集しており、各方面から高い注目を集めています。そこで、今回は、景気ウォッチャー調査について解説していきます。

1. 景気ウォッチャー調査とは

景気ウォッチャー調査とは、身の回りの景気の現状と先行きについて、毎月その良し悪しを質問するアンケート調査です。この調査は、景気に関連の深い動きを観察できる立場にある人、すなわち、スーパーの従業員やタクシーの運転手など、経済活動の最前線で仕事をする、全国の2,050人を対象としています。

調査開始は、2000年1月と、比較的歴史の浅い統計であるものの、調査終了から公表までの期間がわずか6営業日と、速報性に優れていることもあり、政府のタイムリーな景気判断に貢献しています。

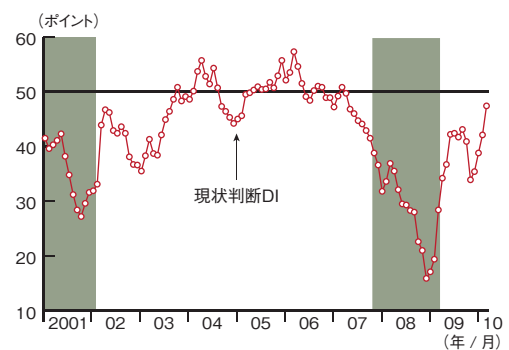
2. 景気ウォッチャー調査のポイント

景気ウォッチャー調査のポイントとして、まず、回答を基に算出される現状判断DIの動きが景気動向に先行して推移することが挙げられます。実際、2007年11月からの景気後退局面においては（図表）、DI値は、2007年4月から低下傾向となっています。ここから、DI値の動向に着目することで、今後の景気の転換点を早くとらえることができると考えられます。

このほかのポイントとして、景気ウォッチャーから寄せられるコメントが多数公表されており、街角の景況感を具体的に把握できることが挙げられます。例えば、最近では、「エコ減税や補助金の実施期間の延長に

より、ハイブリッド車の受注が伸び、来客数も増えている。リコール問題の影響は、心配したほどには表れてきていない（東海＝乗用車販売店）」といった声があります。このほか、好転と判断した景気ウォッチャーのコメントには、好調な業種・分野、成功事例などもみられます。

図表 現状判断DIと景気動向



（資料）内閣府「景気ウォッチャー調査」、「景気動向指数」
（注）シャドーは景気後退期（2007年11月以降は暫定）。

3. 今後の景況感について

先行きを展望すると、2010年3月の現状判断DIが、好不調の目安となる50を36か月連続で下回っているものの、2008年12月を底に上昇傾向を続けており、景気は当面持ち直しの動きが続くと考えられます。

さらに、先行き判断のコメントをみると、家電エコポイント制度、環境対応車への購入補助・減税、住宅版エコポイント制度の効果への期待が高く、先行きに対する明るい兆しもうかがえます。

中 朋生